



1. 学習ワークブックの趣旨

政府は、「防災まちづくり・くにづくり学習」の全国展開を支援する目的で、学習ワークブック（副読本）を制作・発行しています。このワークブックは、小学校から中学・高校までを対象として、学校教育現場の教諭・教育学者・文科省、防災まちづくり・くにづくりの専門家が議論しながら土木学会に設置されたワーキングの中で編集されたものです。

2. 学習ワークブックの基本構成

ステップ1：危機を具体的に「想像」する 前半1～10頁

今、私たちの「まち」「くに」がどんな危機に直面しているか、単に情報を教えるのではなく**子供たちの主体的な「想像」**をかきたてる。

- 自然の「恵み」を教える**
 - 自然からの恵み(p2～p3)
 - 自然そのものを恐怖の対象と見なしてしまわないように、「自然の恵み」を改めて解説
 - 授業づくりのヒント① 児童・生徒達が普段口にしているものや体験したことのあるレジャー等、自然の恩恵を受けている例を発言させ実感を持たせる
- 被害を「想像」させる**
 - 災害による被害(p8～p10)
 - 自然現象によって私たちが受け得る被害を、①災害直後 ②災害からしばらくの間 ③長い間の「後遺症」の三段階に分けて例示
 - 授業づくりのヒント② 児童・生徒達の「地元」の災害等について考えることで、より一層、児童・生徒達にとって身につまされる形の授業とすることが出来る
 - 災害をもたらし得る自然現象を、写真・イラスト・コメントを用いてそれぞれ解説
 - 危機を「想像」させる
 - 大雨で何が起る？(p4～p5)
 - 授業づくりのヒント③ 自分の街ではどこがどうなるかを考えさせたり、他に起こりそうなこととは何かを考えさせ、発言をうながす

ステップ2：危機を「避ける」方法を考える 後半11～20頁

想像した「危機」を避けるために、**どうしたら良いかを考えさせる。**

- 私たちにできること(p11)
 - 災害対策の具体例を、自助・共助・公助の三種類に分けてワークシート形式で書かせる
 - 授業づくりのヒント④ ワークブックを「参考」に考えさせる方法もあり、最初はワークブックを見せずに自由に考えさせ、ある程度意見が出たあとで配布し、さらに議論を深める方法もある
- 対処法を考えさせる
 - 災害に強い「まち」「くに」とは？(p14～p15)
 - 「まち」や「くに」の構造に着目し、どんな場所が危険で、どうすれば災害に強くなれるか考えさせる
 - 授業づくりのヒント⑤ 災害に強ければそれでいいというわけではなく、平時の快適な暮らしも見据えたまちづくりを考えるよう誘導する
- 体験させる
 - 災害に強いまちを作ろう(p16～p17)
 - 白地図のどこに何を配置すればよいかという「まちづくり」の考え方や、その難しさを体験させる
 - 授業づくりのヒント⑥ 「しくみ」を考えさせる
 - 災害に強い「まち」「くに」をどうつくるか(p19)
 - 人々が災害に強いまちやくにを「考え続ける」ためにはどうすべきかを、じっくり考えさせる

3. 学習ワークブックと教科・領域との関連性

■ : 特に関連性が高いと考えられる教科・領域

対象学年	教科	目標	内容（関連箇所の抜粋）
小1・2	生活科	(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。	(3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかがわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
小3・4	社会科	(1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。	(4)ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。 (4)イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。
小5	理科	(2) 植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長、流水の様子、天気の変化を条件、時間、水量、自然災害などに目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生命の連続性、流水の動き、気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。	(3) 流水の動き (4) 天気の変化
小5	社会科	(1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。	(1)イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活 (1)エ 国土の保全などのための森林資源の動き及び自然災害の防止
小6	理科	(2) 生物の体のつくりと働き、生物と環境、土地のつくりと変化の様子、月と太陽の関係を推論しながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、生命を尊重する態度を育てるとともに、生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化のきまり、月の位置や特徴についての見方や考え方を養う。	(4) 土地のつくりと変化
小6	社会科	(2) 日常生活における政治の動きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。	(2)ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の動きが反映していること。
中1・2	社会科 〔地理的分野〕	(1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。	(2) 日本の様々な地域 イ 世界と比べた日本の地域的特色 (7) 自然環境
中1・2	社会科 〔地理的分野〕	(2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでもとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。	(2) 日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 (7) 自然環境を中核とした考察 エ 身近な地域の調査
中1	理科	(3) 地学的な事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに、大地の成り立ちと、気象とその変化、地球と宇宙などについて理解させ、これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。	(2) 大地の成り立ちと変化 ア 火山活動と火成岩 イ 地層の重なりと過去の様子
中2			(4) 気象とその変化 ア 気象観測 イ 天気の変化 ウ 日本の気象
中3	理科	(4) 生物とそれを取り巻く自然の事物・現象を調べる活動を行い、これらの活動を通して生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育て、自然を総合的に見るることができるようにする。	(7) 自然と人間 イ 自然の恵みと災害 (7) 自然の恵みと災害
中学校全学年	保健体育	個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	(3) ウ 自然災害による被害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による被害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。
高1・2・3	地理A	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	(2) 生活圏の諸課題の地理的考察 イ 自然環境と防災 ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査
高1・2・3	地理B	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	(3) 現代世界の地誌的考察 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本
高1・2・3	地学基礎	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	(2) 変動する地球 エ 地球の環境 (1) 日本の自然環境